

令和8年度農作物鳥獣被害防止対策研修
2026年7月9日

中型哺乳類による 農作物被害対策

農研機構畜産研究部門
藤本竜輔

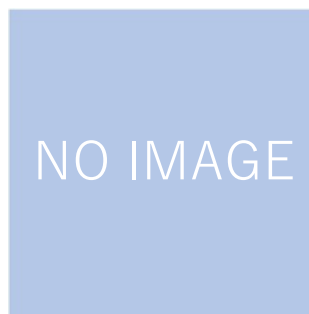
中型哺乳類による農作物被害対策

■ およそ平均体重0.5~10kgの種をまとめた呼称

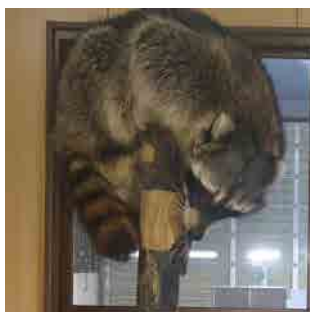
- ・ ドブネズミ(0.04-0.5kg)より大きく、ニホンザル(6-18kg)より小さい



タヌキ (3.2-5.2kg) アカギツネ (1.9-6.7kg) ニホンアナグマ (5.3-9.0kg)



ニホンテン (1.0-1.5kg) イタチ (0.1-0.6kg) ニホンノウサギ (2.1-2.6kg)

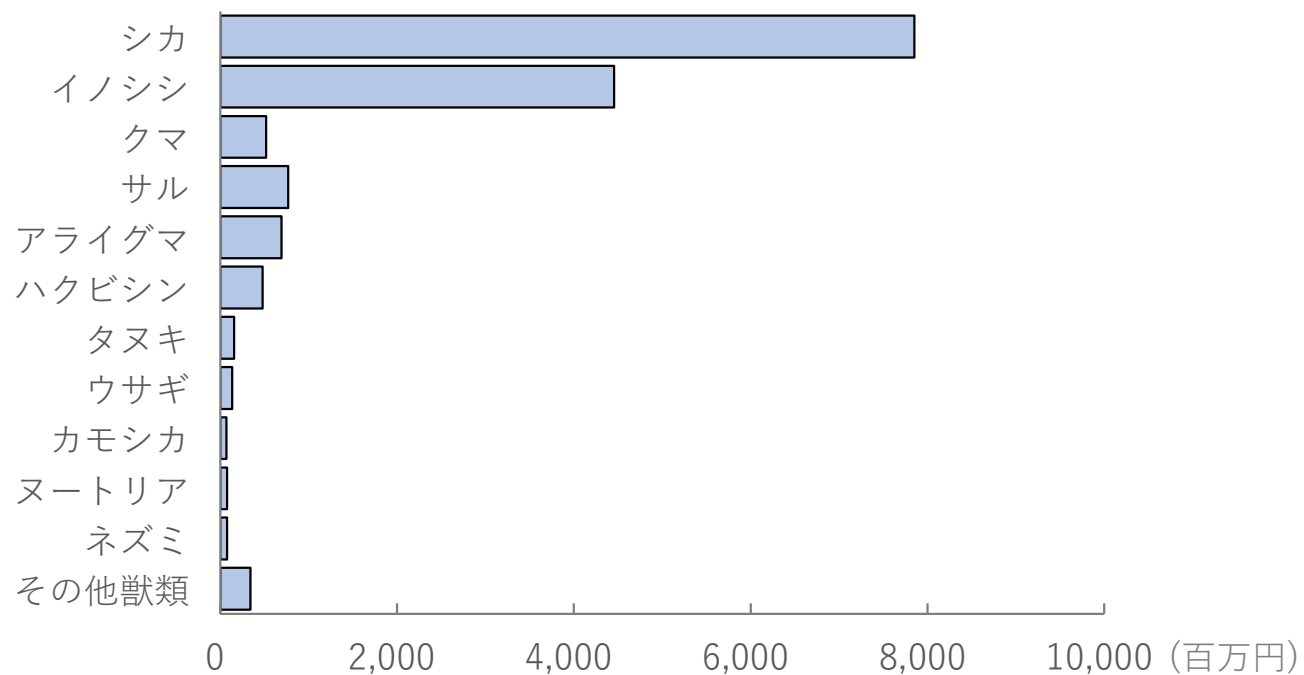


アライグマ (3.6-9.0kg) ハクビシン (1.8-4.3kg)

中型哺乳類による農作物被害対策

■ およそ平均体重0.5~10kgの種をまとめた呼称

■ 被害額は全体の1割程度



R6年度全国被害額(出展：農林水産省HP)

中型哺乳類による農作物被害対策

- およそ平均体重0.5~10kgの種をまとめた呼称
- 被害額は全体の1割程度
- 農業被害対策の考え方は大型哺乳類と同じ



環境管理



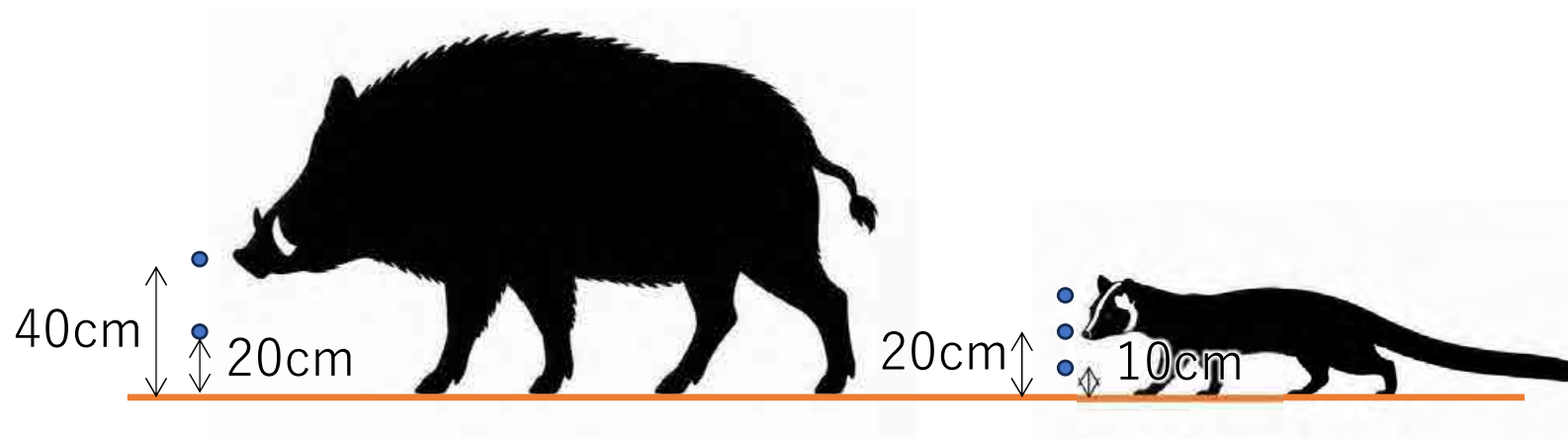
侵入防止



加害個体捕獲

中型哺乳類による農作物被害対策

- およそ平均体重0.5~10kgの種をまとめた呼称
- 被害額は全体の1割程度
- 農業被害対策の考え方は大型哺乳類と同じ
- 対策するには加害種の同定が重要（特に大型か中型か、登るか登らないか）
 - ・ 体の大きさによって、適した柵の形が異なる

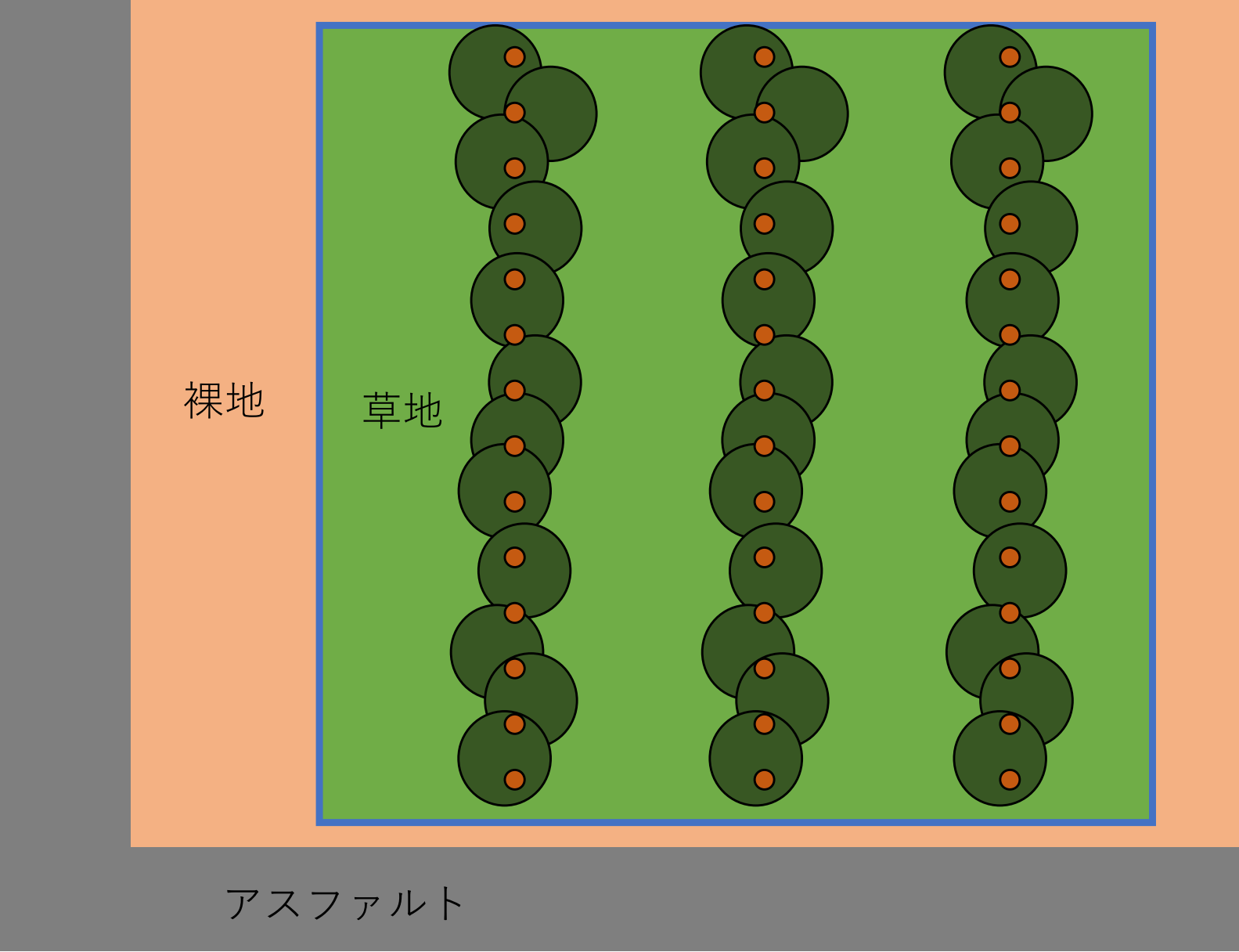


中型哺乳類による農作物被害対策

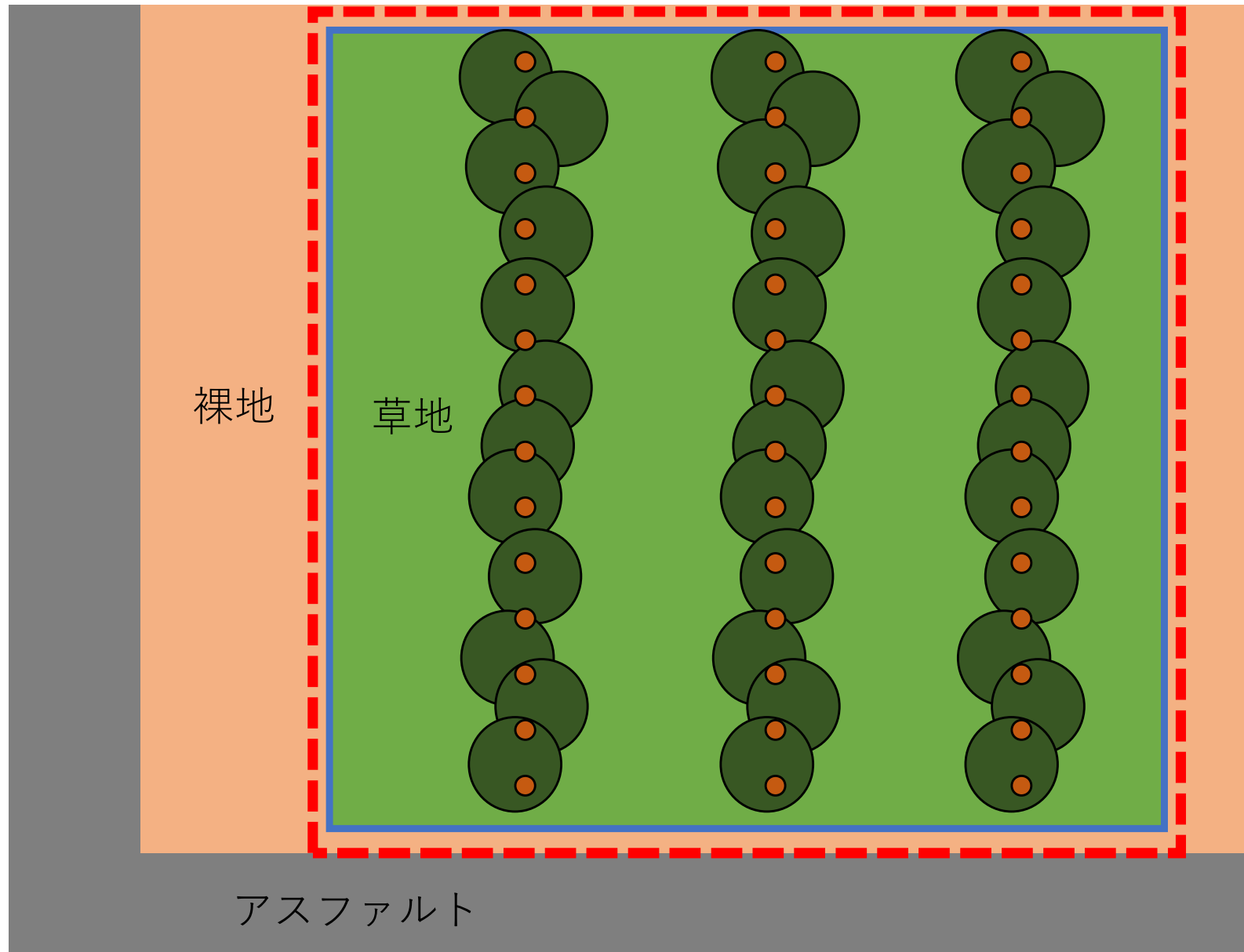
- およそ平均体重0.5~10kgの種をまとめた呼称
- 被害額は全体の1割程度
- 農業被害対策の考え方は大型哺乳類と同じ
- 対策するには加害種の同定が重要（特に大型か中型か、登るか登らないか）
 - ・ 体の大きさによって適した柵の形が異なる
 - ・ 登って侵入される可能性の有無によって適した柵の形が異なる



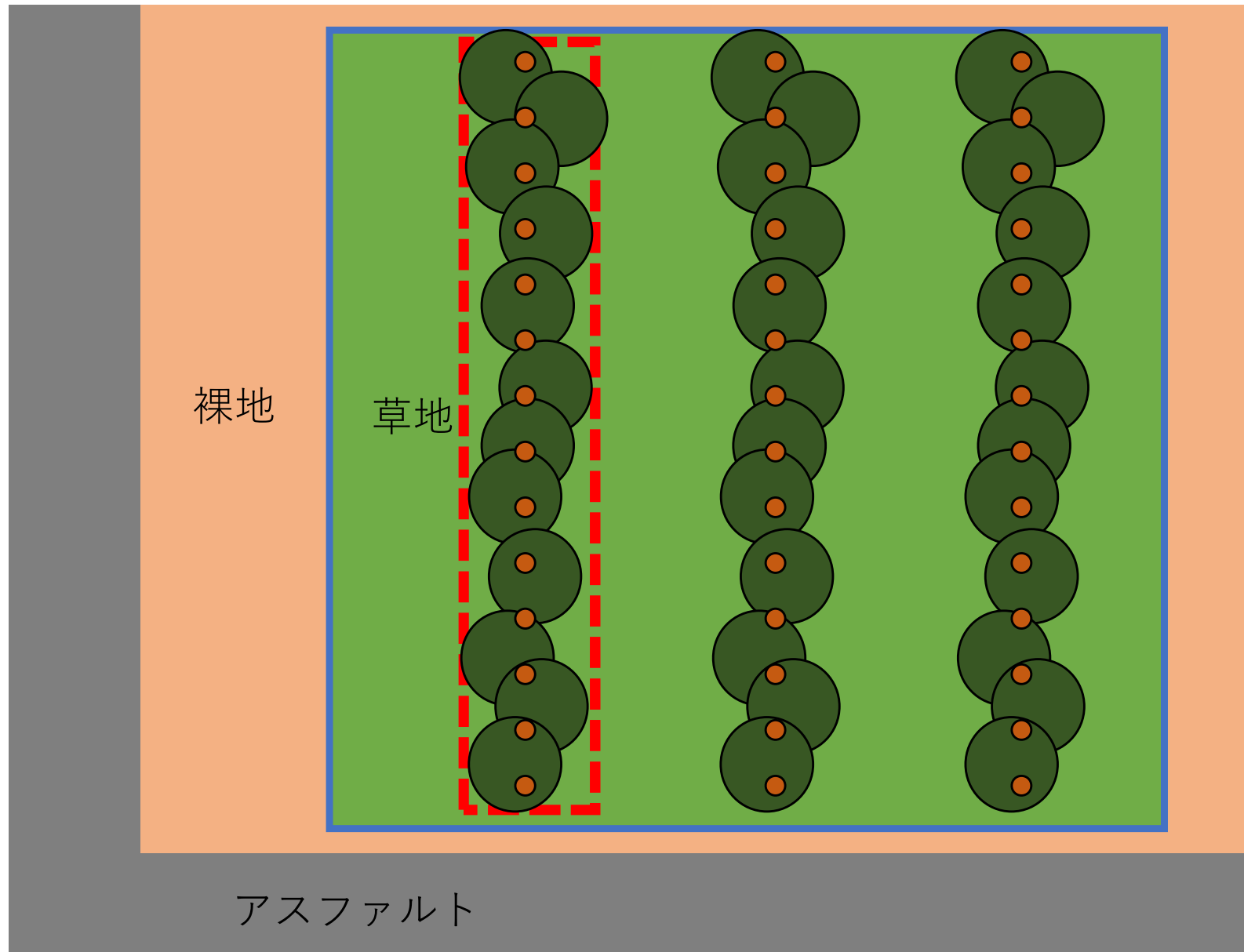




案1 圃場全体を囲う



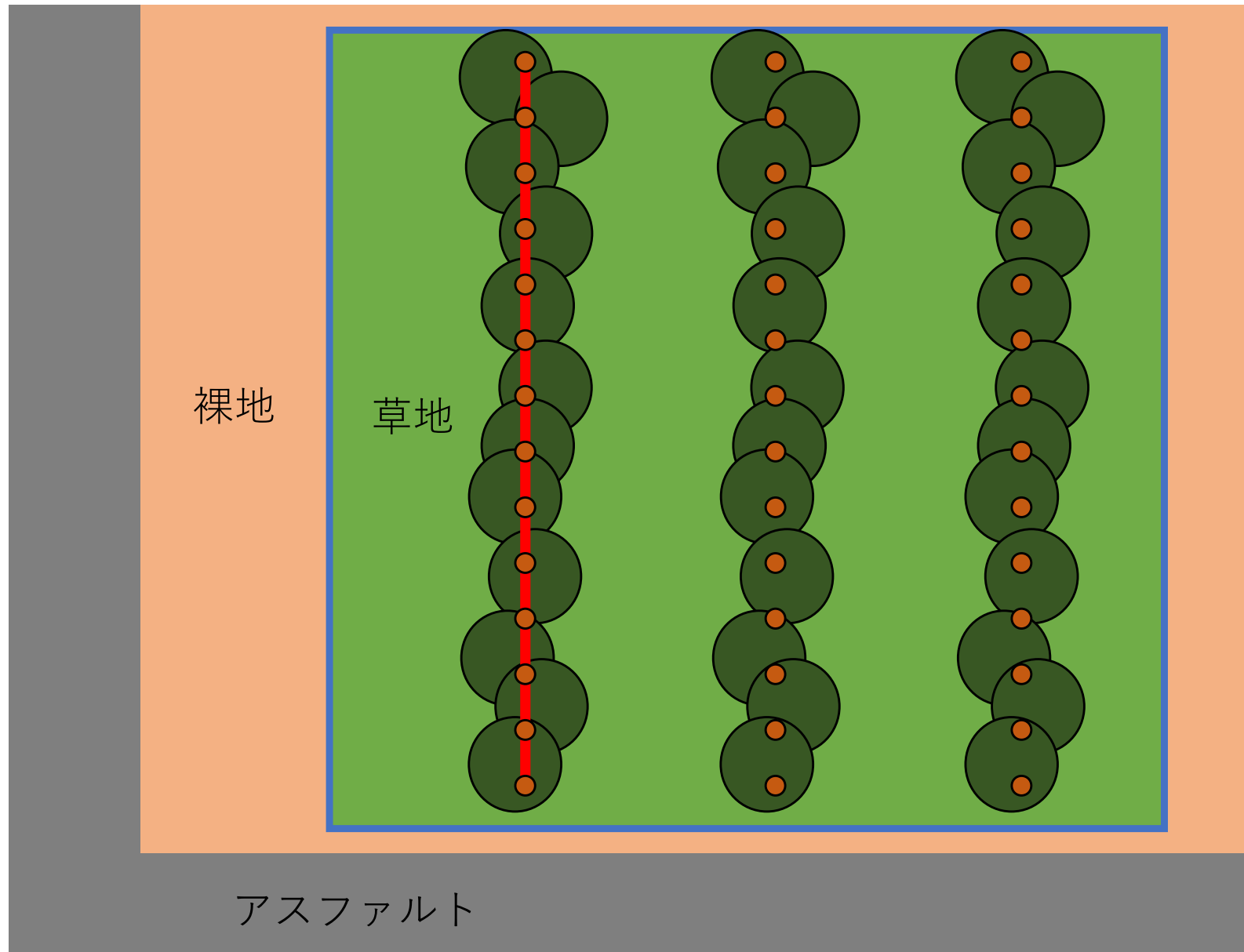
案2 樹列を囲う

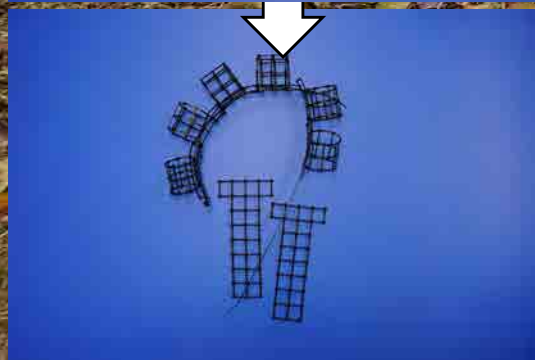
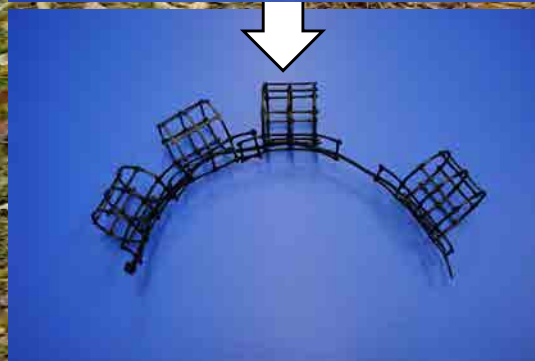
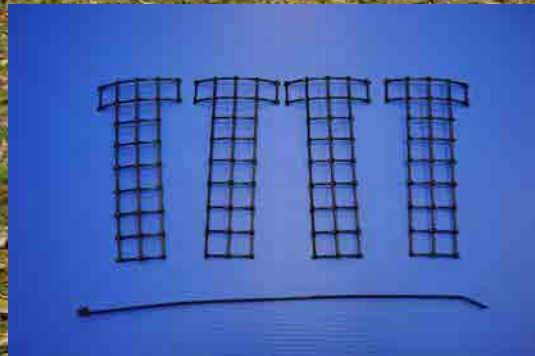
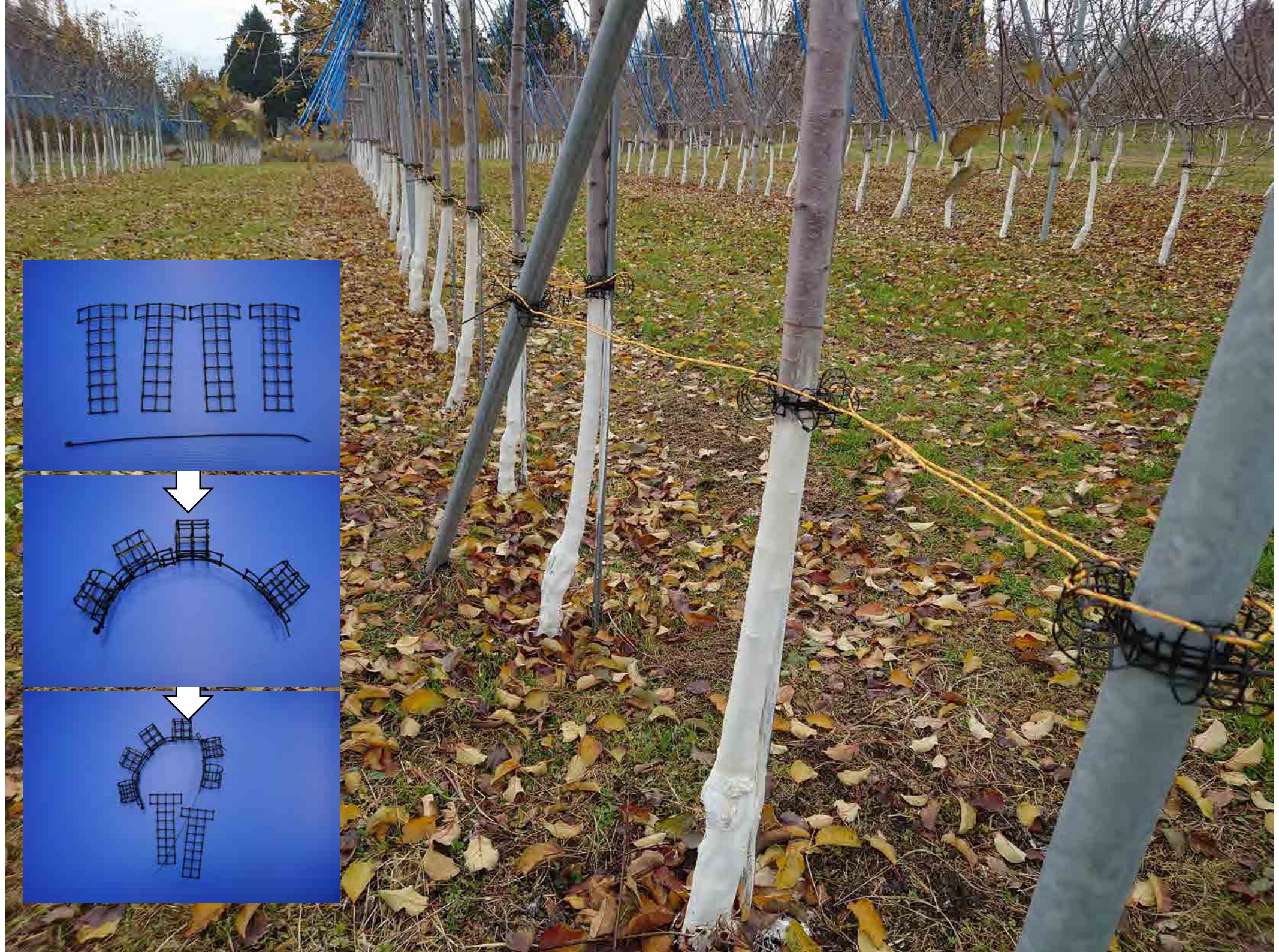






案3 樹体に電気柵を架設する







樹体碍子を高さ50cm以上の位置に取り付けると
取付位置への接触が増える
 (感電によって登攀防止できる)

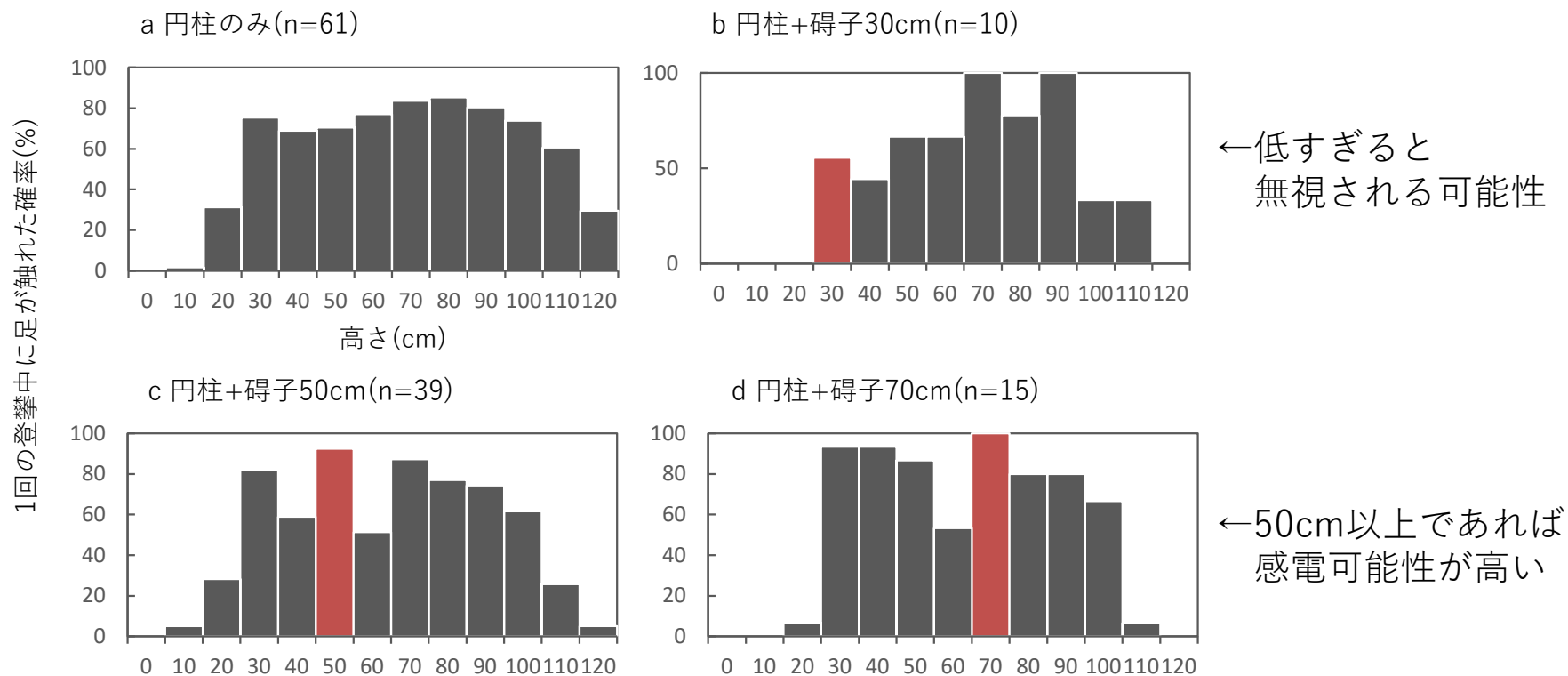


図 円柱登攀における高さ別接触確率と碍子取付高の関係

中型哺乳類による農作物被害対策

■加害種の同定

- ・被害作物
- ・足跡



中型哺乳類による農作物被害対策

■加害種の同定

- ・被害作物
- ・足跡
- ・食痕



中型哺乳類による農作物被害対策

■加害種の同定

- ・被害作物
- ・足跡
- ・食痕
- ・センサーカメラを活用する







2026/05/27 21:37:01



2026/05/27 21:43:13



2026/06/24 20:13:09

